

京都教区時報

第128号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

) 50周年行事報告・ウォーカソンの報告 (

青年ももえた さあ!これからが私たちのスタート 第1回福音宣教推進全国会議を終えて

宣
言

日本カトリック教会全国福音宣教推進全国会議に参加した私たちは、

父なる神と、

私たちを送り、私たちを支え、私たちのために祈る兄弟、姉妹たちと
日本社会に生きるすべての人々の前に、宣言します。

福音宣教推進の目的の下に、開かれた教会づくりを課題として、信徒、司祭、司教、修道者が一つのテーブルを囲み、互いの尊敬と信頼の中に心を開いて、体験を分かち合い、新しい光を求めました。それは、日本の教会の私たち一人ひとりにとつてはじめての体験であり、大きな喜びとなり、私たちは、そこにこれから日本の教会の確かな希望を見出しました。

私たちは、この経験を踏み台として、新しい歩みを始めます。

私たちは、まず、これまで教会を支え、信仰を伝えるために努力してこられたすべての方々に心からの感謝を表明いたします。同時に、ともすると内向きに閉ざされがちであった私たちの姿勢を真剣に反省し、神であるにもかかわらず兄弟の一人となられたキリストにならい、すべての人に開かれ、すべての人の憩い、力、希望となる信仰共同体を育てるよう努めたいと思います。

複雑多様な問題をかかえる現代社会は、信仰を持つ私たちにも、多くの人々にも、重いものであることは事実であります。しかし、私たちは、聖靈の導きに支えられ、このような社会に生きる一人として、人々の営みに積極的に誠実な心を寄せ、そこに生きる人々の魂の飢えと渴きに共感し、特にさまざまな状況の中で苦しみあえぐ人々と労苦を分かちながら、ともに歩みたいと思います。さらに、アジアおよび全世界の、善意をもつて働くすべての人々と手をつなぎ、人間の尊厳を守り真の幸せを実現することに貢献できる教会を育していくよう励みます。

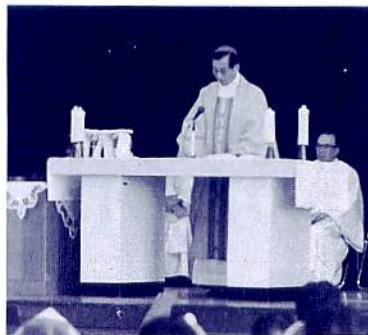
1987年11月23日

福音宣教推進全国会議参加者一同

現代社会における対話と刷新に向けて 各地の50周年記念行事報告

～青年の活躍が目立ちました～

京都北部



日星高校講堂で記念ミサ

9月27日 田中司教様をお迎えして、教区創立50周年の京都北部12教会合同記念ミサが、日星高等学校講堂で行われた。

この記念行事の実施に当つて2つの目標を立てておりました。

(1)神父様方始め、できるだけ多数の信徒が参加する。

(2)ミサの後の催しは、司教様、神父様方、信徒の和やかな交流の場とする。

第1の目標は500名近い参加者を得て、8名の神父様と共に司教様を中心感謝の祈りを捧げることができました。

司教様は「北部はバチカン公會議からは、遠い存在にある」と言われていますが、50年の歴史を振り返つてみると、軍港地であつた北

部の地は、パリミッション会の神父様方、戦後は、レデンプトール会の神父様方が、如何に大きい愛の奉仕をして下さった土地でようやつて、未来に向つて、自らを開かれた信徒として、信仰を育てていつていただきたい……」とお話をになりました。

さて第2の目標は、和やかな親睦の集いをもつことでした。

中丹の6教会は、模擬店を、丹後の6教会は、青年達を中心としたコンサートを行いました。司教様もステージに上られアジアの民謡を歌つて下さるなど、信徒の中にご自分を置かれて奉仕して下さいました。久し振りに会う信徒相互の親睦は勿論、司教様、神父様方、信徒が、同じ場所に立つて、同じ時間に、同じ目的をもつて、対話ができたことは、実り豊かな一日であつたと感謝しております。

文責 伊藤武志

10月18日 京都教区50周年記念行事「第一回ウォーカソンin津」が三重県カトリック教会青年部主催のもとで開かれました。

朝9時から受付を開始、三重県の下の信徒の人々が集まり、9時半から開会式と田中司教様司式のもので青年たちによるフォーケミサが行われました。ミサ後ウォーカソンの目的をはつきりするために唐崎より畠山氏を迎えてフイリピンのドウマガット族がどれだけ飢えや病気で苦しんでいるかという話をスライドを使って説明していただきました。私達の行事の目的が50周年の記念行事というただ一回きりのお祭り騒ぎではなく信徒の各人がこれをひとつ節目としてもう一度自分の信仰や本との愛について自分自身と向きあうことが大切なんだと、ミサを通してまた畠山氏の説明を聞いて感じさせられました。

この後、ウォーカソンに参加する人は教会内で昼食をとり、1時にスタートしました。参加者は約130名。秋晴れの津の町をドウマガット族の人々に力をかすために青年部の描いた横断幕やプラカードをもつて8キロの道のりをお年寄から赤ちゃんを抱いたお母さん、車イスの人まではましあつて歩きました。

県下の信徒たちが同じ目的で一
つになれたことはとても大きなお
恵みであつたと心から感謝してい
ます。私達青年にとつても、初め
て、全てを任せ、連絡が徹底せ
ず、トラブルも多かつたのですが
失敗は次回へのステップとし、今
回気づかせていただいた多くのこ
とを、神様の大きなお恵みとして
うけとめていきたいと思つていま
す。

文責 永田和子

奈良県ブロックでは、毎年9月
23日にウォーカソンをしているが、
今年は特に、教区創立50周年行事
の一つとして位置づけて実行した。
そしてウォーカソンを終えたあと、
記念ミサをしてもらうことにした。
例年ウォーカソンの計画やお世
話は、青年諸君の活動にオンブシ
テいるが今年もまた同様であった。
記念ミサについても、行事委員会
の委員と青年諸君のお世話になつ
た。

朝10時からの受付ということで、
県下各教会から老若男女、子供達
も連れだつて、それぞれゼッケン
をつけて、奈良教会へ集まつた。

教会の中でウォーカソンの注意事
項を聞いて、10時半に出発。コー
スも例年どおり、奈良教会から、
高の原の屋外礼拝センターまでの
約8km。途中二軒ごとにチエック
ポイントがあり、そこでハンを押
してもらう。

終着地点へ着いた人は、順次昼
食をすませる。たまたま大阪教区
の人々がバス巡礼で来ておられ、ミ
サのあることを知つてそれにあず
かれ、花を添えてくれた。

田中司教様は、その日の午前中
にあつた京都南部地区の記念ミサ
を終えられ、それこそ食事をとる
間もあらばこそ、奈良へおいで下
さり、ミサを司式して下さつた。
この日の参加者は約400人、ウォー
カソンで歩いた疲れもみせず、元
気よく聖歌を歌い、聖体拝領し、
共に主を賛美することができた喜
びは格別のものであつた。



京都府南
部地区の記
念行事は、
河原町の司
教座聖堂と
河原町教会
を会場にし
て行なわれ
ました。

この記念
行事のため
に組織された信徒の実行委員会の
皆さんとの1年近くにわたる企画と
準備に従い、当日早朝から各小教
区の代表の方々が集まつていただき
て行事の準備が完了し、午前10時
に記念ミサによつて幕が上がり
ました。

記念ミサは、田中健一司教様、
古屋義之司教様が、南部地区の神
父様方と共に司式して下さり、多
数のシスター方や、遠く園部の「こ
ひつじの死」の障害者の方も含め、
聖堂を埋める多数の参加者がこの
会のメンバーと談笑する人、一同
大いなる喜びと充実感のうちに、
三々五々家路についた。

文責 岩井 洋
50年の間に教区に与えられたお恵
みを感謝し、これから「対話と
刷新」に向けて誓いをあらたにし
たのでした。ミサに先立ち、小教

区の皆さん協力で完成した、50
周年のシンボルマークの刺しゅう
の額縁を記念として教区にお贈り
できたものも大きな喜びであつた
と思います。

ミサに引き続いて、聖堂前の広
場では南信協婦人部主催の模擬店
が小教区の皆さんのご協力で開催
され、またたく間に売り切つてしま
うという盛況でした。

午後からは、地下ホールで青年
の集いが開催され、現在の教会が
白熱した論議が展開され、意義深
い催しとなりました。

また聖堂では、古屋司教様から
教区創立以来の歴史についての講
演をしていただき、多数の聴衆の
前で延々二時間越える熱演でした
が、まだようやく終戦直後の時代
までしかカバーできなかつたほどで、
多大の感銘を与えて頂きました。

多くの皆様の御協力に心から感謝
しながら報告とさせて頂きます。
文責 奥本裕昭

南部信徒協青年部から

記念集会・シンボジウムを終えて
去る9月23日に河原町教会での
京都教区50周年記念集会において、

南信協青年部主催による公開シンポジウムをしました。以下その時の模様を御報告したいと思います。

参加者は、パネラーと一般参加者を合わせて30名から40名ほどで、主に青年の教会離れに焦点を絞つて討論しました。

今までの青年問題というのは、少年の側からの対策としてどうえらばれ、それが先に先行してきたように思われます。今回は少し視点を変えて、青年自身の問題として教会離れの原因をさぐっていくことを主眼に置いたわけです。

期待していた以上に、一般参加者からも活発な意見が出されました。

まず最初にパネラーから各青年会の現状と問題点を報告してもらいました。その中での意見をまとめてみますと、まず第1に社会と教会の二重生活と世間一般的の価値基準のギャップに疲れ果てているということ、第2に自分達の信仰を維持しているものは何かがはっきりしていない、第3に教会に来ない青年に対して青年会が具体的な働きかけと受け入れ体制をとっている、第4に分かち合いをしていくための仲間作りの欠如、

第5に教会の仕事に青年の自発性や創意性をとりこんでいることから生じる自発的な意欲の低下等々があげられると思います。

2時間の討論の中で活発な意見が出されました。が、教会に来ない青年への呼びかけを大切にし、仲間作りをしていくことを再確認しました。今後もこのような討論を積極的にしていく必要性を感じます。

教会はその内に山積みする問題を抱え、青年の積極的な協力を求めています。逃避せずに様々な困難に立ち向かっていく姿の中に本当の若者らしさがあると思います。



★西院教会

クリスマス聖劇

日時 12月20日(日)PM10時
場所 西院教会

市民クリスマスの集い

日時 12月24日(木)PM8時
場所 西院教会

★河原町教会

クリスマス市民の集い

日時 12月24日(木)PM7時
場所 河原町教会

★奈良教会

市民クリスマス

日時 12月20日(日)PM6時30分
場所 奈良教会

★洛星中・高等学校

クリスマス・タブロー

日時 12月24日(木)PM6時
場所 洛星高校

★セント・ヨゼフ女子学園

クリスマス・タブロー

日時 12月20日(日)PM2時
場所 セント・ヨゼフ女子学園

Merry Christmas

★大和高田教会

チャリティコンサート ードマゴットの人々のために

日時 12月20日 PM1時～3時
場所 大和高田教会・幼稚園ホール

会費 200円
主催 大和高田教会青年部

▼青年たちが「人間の大地(犬養道子著)」
を読んで、第3世界の人々のことを知り、自分たちの生活を見直す中で彼のためにはかしたい、できないかということでお話をしました。一人でも多くのみなさんのご参加をお待ちしています。



★暁星女子高校

クリスマス・タブロー

日時 12月18日(金)PM1時
場所 暁星女子高校



り、自分たちの生活を見直す中で彼のためにはかしたい、できないかということでお話をしました。一人でも多くのみなさんのご参加をお待ちしています。

ために何かしたい、できないかということでお話をしました。ここでコンサートを企画しました。一人でも多くのみなさんのご参加をお待ちしています。

'87みんなであるこうウォーカソン

こんなに広がりました

みんなの愛・愛・愛

京都(第9回)

統計的にみても例年、晴天に恵まれるウォーカソンも今年(11月3日)は時おり雨が降る中で行われました。参加者も年々増え、みなさまの愛がどんどん広がっています。

来年は10回目を迎えます。みなさまこれからも宜しくお願ひ致します。



9回連続参加の井上さん親子



お祈りする高田くん

神様、今日ぼくたち、わたしたちでバングラデシュとネパールのお友達を少しでも助けたいと思います。

ぼくたち、わたしたちは毎日ごはんを食べ学校に行ってています。でも世界の色々な国ではごはんも食べれず着る物もなく学校に行けないお友達がたくさんいます。一生懸命歩いて頑張りたいと思います。またぼくたちわたしたちの生活がとても恵まれているという事をこのウォーカソンを通してもう一度考え直したいと思います。どうか神様、事故がなく終わるようにお守り下さい。



雨の中ご苦労様です
いつもご協力ありがとうございます



バングラデシュについて

話される石川先生

三重ウォーカソンを準備した青年たち



三重ブロックでは教区創立50周年記念行事として、各小教区の青年たちが企画し、ウォーカソンをしました。参加者約130名、全コース8km。集まった募金は、畠山氏を通してドマゴット国際里親の会に送ります。

滋賀

11月3日、第1回びわこウォー

毎年たくさんの方が楽しみにして下さるようになったウォーカソン。今年は京都教区創立50周年の記念行事の中でまた、それぞれ目的をもつて各地で行われました。アジアにはまだまだ私たちの知らない国々があり、多くの人々がたすけを求めています。この人々のためにできる、私たちの小さな行動にこれからもご協力お願いします。

ページの表は、各地域で行われたものまとめたものです。

カソンは、200余名の参加を得て、成功裡に終った。9時30分大津カリック教会集合。お祈りの後、鐘の音と共にスタート。琵琶湖畔経由近江大橋往復、約8キロメートル。受付やチェックポイントの仕事はガールスカウト、婦人会の協力で、交通整理はボーイスカウトのお世話でと、沢山の人達の協力がありました。来年も、実施する予定です。

大津教会 文責 安楽好正

奈良(第5回)

教区創立50周年記念行事の一つとして、また50周年実行委員会青年部が主催する「青年の集い(PAX)」の第2回目として今年のウォーカソンは行われました。奈良県の青年、三重県の青年たちも参加し、奈良教会から野外礼拝センターまでの8kmを歩きました。参加者は約300名、募金額は2,786、



受付けご苦労さま



今年もご苦労さま



教区50周年記念ウォーカソンを



今年も生徒・職員約300名が参加し無事ウォーカソンができた。また今年5月には、昨年の募金50万円を韓国・慶州にある「ナザレ園」に届けることができた。ウォーカソンを通しこれからも愛の交流を深めていきたいと思う。

韓国学習旅行を終えて

徳田久美子(3年)

福祉教育と国際理解教育は私たちの学校の特色の2本の柱になっています。そこで私たち3年生は本校での最初の試みとして、今年の5月韓国学習旅行をしました。

実際の4日間の旅行では、心温まる出来事や出会いとともに多くのことを学びました。その中でナザレ園の方々との交流は、特に胸に残っています。

ナザレ園での交流会では日本の歌を3曲歌うことになつていて、出発の前日まで先生の指導を受けっていました。当日、私は体調が少しおかしかつたので心も沈んでいたのですが、たどたどしい足取り

236円でした。皆様ご協力ありがとうございました。来年も力を合わせて頑張りましょう。

日星高等学校

今年も生徒・職員約300名が参加

し無事ウォーカソンができた。また今年5月には、昨年の募金50万円を韓国・慶州にある「ナザレ園」に届けることができた。ウォーカソンを通しこれからも愛の交流を深めていきたいと思う。

福祉教育と国際理解教育は私たちの学校の特色の2本の柱になっています。そこで私たち3年生は本校での最初の試みとして、今年の5月韓国学習旅行をしました。

実際の4日間の旅行では、心温まる出来事や出会いとともに多くのことを学びました。その中でナザレ園の方々との交流は、特に胸に残っています。

ナザレ園での交流会では日本の歌を3曲歌うことになつていて、出発の前日まで先生の指導を受けっていました。当日、私は体調が少しおかしかつたので心も沈んでいたのですが、たどたどしい足取り

で入場される園の方々を見ると一言一言かみしめるようにお話をされたお婆さんの話から、韓国内でのナザレ園の役割や、これまで女性というだけで差別されたり、戦争によって家を焼き払われたうえその日の食料を心配しなければいけないという中で生きてこられたことを知りました。この方々に比べ、私たちはどれだけ自由で豊かな時代に生きているのかを痛切に感じました。

そして最後に、「何でも頑張つてやらなあかんよ、今が一番いい時期なんだから」と言わわれると、まるでお母さんか、お婆さんに言われているみたいで、おもわず日本にいる母のことを思いました。

やらなあかんよ、今が一番いい時期なんだから」と言わわれると、まるでお母さんか、お婆さんに言われているみたいで、おもわず日本に置ってきた家族や友人の姿を思ひながら、おられるのか、時

々寂しげでした。

このふれあいの中で国との違いではなく、人間としてのやさしさや思いやりの大切さを肌で感じました。園の方々と別れるのがとても辛かったです。機会があれば、今度は全員の方とお話ししてみたいです。4日間のスケジュールと2年生の時からの学習旅行へむけての準備を振り返り、わたしは「終った」という思いでホッと胸をなでおろすと同時にもう一度韓国へ行きます。そして、日本国内の中でも、韓国のことだけでなく、アジア・世界のことをしっかりと学習し、お互いの理解を深めていきたいと考えています。



セント・ヨゼフ女子学園

天候にも恵ま
れ、10月31日(土)
2度目のウォーキングを行つた。

実施にあたつて、
実施にあたつて、
都よりノートル
ダム女子大学の
システム



大陽が輝くかぎり
希望もまた輝く
(ミラー)

を招いて全校生徒900名にインドの現状について話していただき、ウオーカソンの意義について考える時間を設けた。当日には朝日新聞をはじめ全国放送のFM番組でニュースを流していたとき、多くの方々が時間を使いました。生徒、職員、父兄、シスター約320名の参加のもとに実施することができた。当日には朝日新聞をはじめ全国放送のFM番組でニュースを流していました。多くの方々が理解も得られたようだ。

	送り先	参加人数	募金額	備考
京都(12km)	バングラディッシュ・ネパールの子供達のために	800名	現在集計中	
奈良(12km)	"	300名	2,786,236円	50周年記念行事
滋賀	"		現在集計中	「平和への歩み」の行事として
三重(8km)	ドマゴット国際里親の会へ	130名	1,113,150円	50周年記念行事
日星高等学校(10km)	在韓日本老婦人の収容施設「ナザレ園」	300名	現在集計中	
セント・ヨゼフ女子学園	Srジーン(ノートルダム教育修道会)を通してインドへ	320名	"	

お知らせ

=あなたの教会学校のために=

(グリンベイに基づく教会学校教案集)

「ワークブック」

小学1年~6年 各3冊

1冊￥250円 3冊セット￥700円

「現代っ子の信仰教育」

教師用 1年~6年

★お問い合わせは京都カトリック教理センターへ

12月	
5~6日	宣教司牧評議会
7日	司祭評定例会議
18日	SVP京都中央理事会
20日(日)	大和高田教会
24日	チヤリティコンサート
25日	Xマス市民の集い (河原町教会)
28日	京都南部司祭集会

'88年1月
1日 正月元旦ミサ

▼外国人登録法問題と その背景に関する

連続公開講座 第3回

在日韓国・朝鮮人社会構成

世代・帰化・国際結婚

日時 1月31日(日)PM 3時~5時

場所 大阪カトリックセンター
〒541 大阪市東区北浜5-31-1

受講料 500円(当日会場で受け付けています)
住友信託ビル7階(電話での問い合わせはご遠慮下さい)

事務局 日本聖公会大阪教区センター
申込み・連絡先

在日韓国基督教会館(KCC)
〒544 大阪市生野区中川西2-6-10
☎ 06(731)6801(当日受付も可)

吉田清治さんの証言を聞く会

吉田さんは、日本による朝鮮半島植民地支配時代に、多くの朝鮮人を日本に強制連行した人です。

戦後、自分の行いを悔いて、歴史の実を後世に伝えるために各地で講演をして下さっています。

アジア諸国に対する侵略戦争を遂行するための労働力として、想像を絶するひどい手段で朝鮮人が「狩り集め」られて、日本へ強制連行されました。そして、軍需工場や炭鉱で過酷な労働に従事させられたり、戦場での飛行場作りに送られて「玉碎」させられたり、また、女性は「従軍慰安婦」として辱められました。

吉田さんは、大日本労務報国会の下関支部動員部長として、朝鮮人強制連行をした自分の経験を語って下さいます。

日本人は隣人にに対して何をしたのでしょうか?

なぜ多くの朝鮮・韓国人が日本に住んでいるのか? どうやって彼ら、彼らが日本に来たのか? 連れて来られたのか? どのような生活を強いられたのか?

それを日本人は知らないし、その歴史の実を知って、今日ある在日朝鮮・韓国人に対する差別をやめるために力を尽くさねばならないと思います。

日時 1988年1月15日(祝)2:00~5:00・16日(土)6:00~9:00

場所 カトリック会館6階ホール

主催 吉田清治さん証言会実行委員会

(京都教区指紋と人権を考える会・教理センターほか)

問い合わせは 教理センターへ ☎ 075(752)0057

聖書が好きになる講座

聖書を使いつぶやき

1988年1月~3月

聖書を通して、もっとキリストに近づき
キリストの心を心としよう

水	木	チーマ	内 容
13	14	旧約聖書概観 —旧約聖書への第一歩—	イスラエルの歴史の中で旧約の各書(旧約全書も含む)が、いつ頃、どのように形成されたかを概説する。 一出エジプト時代からマカバイ時代まで —新旧約共同説聖書を出来れば用意して下さい。
20	21	講師 和田幹男神父(英知大学)	
27	28		
3	4	福音書にみるイエス	洗礼の出来事から、死と復活に至るイエスの歩まれた道、即ちイエスの価値観、神との対話は、結果的に当時の社会、宗教、権利にぶつかった道となったということを、福音書を使いつぶやく。
17	18	講師 コレーン神父(堺教会)	
24	25		
2	3	福音書の中で望まれる共同体	例えば ◆コリント前書 12章~14章 ◆「善きサマリヤ人」「最後の審判」「義通の女」etc.
9	10		
16	17	講師 村上透磨神父(教区時報)	
23	24		

◆対象
これまでに、小教区で何らかの聖書のクラスを受講した人を前提とする。

◆場所
カトリック会館6階

◆費用
3,000円(費用は当日受付で、お支払いください。)

◆時間
★夜コース PM7:00~9:00 ★昼コース AM10:00~12:00

◆申込先
〒604 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館内
教理センター(三葉オフィス) 「聖書が好きになる講座」係
12月15日㈫

◆申込〆切
教理センター(三葉オフィス) 「聖書が好きになる講座」担当者まで ☎ 075-0057(5時まで)

◆問い合わせ
問い合わせは 教理センター(三葉オフィス) 「聖書が好きになる講座」担当者まで ☎ 075-0057(5時まで)

かいしん
かいしん
かいしん
狭い所に重複は禁物。無駄にすな。
新。それも無益な重複ですか。
ナイスはヴエリーナイスでしたか。
カインしなければ意味がない。
さあ門を開いて快進。「やれ打つな
はえが手をする足をする。」やさ
しい自然との出会い劇、開演。

(M)

